

2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」

# 謹賀新年 寅

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルスに翻弄されながら、二回目の新年となりました。

今年の新年はいかがお過ごしでしょうか。

デルタ株が猛威を振ったかと思えば、ぱったりと下火になり、今度はオミクロン株による影響が懸念されています。マスク着用、手洗いと手指消毒、密を避け、できるだけ不要な外出はしない…など、基本的な感染予防対策が常態化した今日ですが、手を変え品を変えて襲ってくるウィルスに対しての油断は禁物のようです。常総生協においては、緊急事態宣言下においての活動自粛はありましたが、昨年よりオンラインを駆使し、組合員同士、生産者とのつながりをできる限り止めない努力をして参りました。11月に開催した「オンラインde生協まつり」は、その代表的な取り組みであったと思います。協力を申し出てくださった生産者の皆さんの創意工夫あふれる企画・内容に加え、参加してくださった組合員の皆さんが前のめりになって聞きながら見聞きする様子は、画面越しではありましたが、同じ時間を共有することで得られた「笑顔」は、何より印象的でした。



常総生協は、50周年を迎える時期を同じくして、次の中期計画策定の時期も迫っています。半世紀も経てば、社会の構造や経済の流れなど、時代の変遷にあわせて、生活協同組合に求めるもの、役割など、在り方そのものの変化もやむを得ないのかも知れません。しかしながら、「食は生命(いのち)」と言う理念は普遍的であると思います。私たちの幸せと豊かな生活を追求する仲間を、共に信頼し、ささえあい、助け合いながら、皆が楽しく笑顔になるような常総生協の未来を一緒に考えていけたらと思います。

そして、今年こそ、喜びと笑顔に満ちた心豊かで平穏な日々がおとずれる事を願うと共に、皆様のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(常総生活協同組合 理事長 増本綾子)

寄付、基金へのご協力をお願いします。

- ★ 被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253にて毎週受け付けています。
- ★ 関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円~にて毎週受け付けています。
- ★ 東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けています。
- ★ JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けています。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

2021年はコロナウィルス2年目の脅威が降りかかり、出口の見えない社会情勢となった1年と感じました。

プライベートでは子どもの所属するサッカーチームでコーチをやらせて頂き、子ども達の変化・成長に喜びを感じています。子ども達に「チャレンジしよう」と言っている本人がチャレンジしないでどうする。という事で、日本サッカー協会公認C級コーチ・日本スポーツ協会公認コーチ1のライセンスを取得しました。コーチング・ティーチング、メディカルなど幅広く、仕事にも活かせる技術を学ぶことが出来ました。



生協事業進捗に関しては2020年に対して10%減、2019年に対して20%伸長と、丁度20年と19年の間をとったような供給高です。10月には最低賃金の上昇、ガソリン代、資材関係も高騰し続け、10年、20年前と比較すると経費が上がり続けている状況になっています。もはや、生協自体もスマホ、PC同様アップグレードしていかないといけないと感じています。雇用確保の問題も大きく、収入と支出のバランス(経営構造)の見直しも図っていかないとはいけません。

### ○コロナショック、情勢変化は組合員さんにも影響が・・・。

また、今年の大きな組合員さんの動きには、働きにいけないから出資金を減額したい。という声もあり、組合員さんの中にもコロナの影響で生活苦になっている状況も見られました。生活・経済状況は10年、20年前と大きく違い、格差社会の差が広がっています。そして、多様な生活様式に変化しています。インターネットショッピングの普及やは特に大きな買い物の仕方の変化につながりました。人とのつながりを強めるためにインターネットを活用した取り組みも増えていて、事業が展開されています。こうした大きな世の中の動きに対して、生活協同組合も変化していく事が求められていると考えます。

週1回配達が常識の生協業界ですが、Amazonや、インターネットを主軸としたEC業界は希望の日時でお届けできます。そういう点では生協の宅配の仕組み遅れている状況と感じています。しかし、いくら大手企業が生協と同様の個別配達をしても上手いかならないこともあります。それは生協の仕組みは組合員が主体ということです。生協ではない企業が同様のやり方をしても利便性や、過度のサービスを求めて、比較するだけで、あくまでお任せ状態です。生協は利用する人たちが主体で運営している・できるという事は生協そのものの魅力です。言うだけでなく共にどうしていけば良いか？を協議して決めていきます。その魅力を強みにしていける様に取り組んでいきたいと思ひます。

### ○食に関する社会情勢も大きく変化しています。

2021年9月15日にサナテックシード社からゲノム編集の高GABAトマトが厚生労働省から認可され、一般販売がスタートしました。また、10月にはマダイ、トラフグなど水産物までもゲノム編集された食品の流通がスタートしています。ゲノム編集高GABAトマト苗については、2022年から障害者福祉施設、2023年から一般の小学校への無料配布が始まる予定となっているようです。遺伝子を操作して安全性が不透明なものを流通させ、受粉して拡大するリスクが非常に高く、怖い状況です。こうした動きに対して常総生協からサナテックシード社に対して抗議の署名活動を行う予定です。また、こうした情報を私たち消費者が知らないでいると、恐ろしいという社会の構造に問題を感じます。産直活動をどう進めていけるかがキーファクターになってきていると考えます。

### ○常総生協のビジョンづくりをしていきましょう！

生活協同組合の目的は何か？既存の人だけの輪だけで良いのか？私は常総生協の理念である「食はいのち」を組合内(組合員・生産者・職員)で共有し、組合内・外にも「理念と価値をひろげていく」事だと思ひます。私たちが取り組んでいる事がひろがるのが、社会に対して常総生協の存在価値を示していると考えます。「食はいのち」を軸とした「人づくり、地域づくり、ものづくり」をひろげていく事を2022年の柱にして、常総生協の発展(アップグレード)を目指して、50周年に向けた新たなビジョンづくりを、組合員、生産者、職員の三者間で考えていきたいと思ひます。

下記地場の有機大豆（蒸し大豆も）は**今季の収穫分が無くなり次第、終了となります**。その後は昨年と同様に**おきたま興農舎の青大豆（秘伝豆）**をお届けする予定です。

商品名	1月4回	2月1回	2月2回	2月3回	2月4回	3月1回	3月2回
地場の有機大豆	○	○	○	○	○	○	○
(蒸し大豆) 地場の有機大豆	○	○	○	○	○	○	○
米こうじ1kg (やまこみそ)	○	○	○	○	○	○	○
米こうじ500g (どんぐりてい)	○	○	○	○	○	○	○
麦こうじ1kg	○	○	○	○	○	○	○
塩（シママース） ※前日OK商品です	○	○	○	○	○	○	○
塩（海の精） ※前日OK商品です	○	○	○	○	○	○	○
仕込み味噌					○		

～常総生協がみそ作りをすすめる理由～

今年も1月2回(1月10日週～)からみそ作りがスタートしました！**組合員、職員一緒になっての取り組みも、今年でもう30年になります**。年々参加人数が増え、毎年600人以上の組合員がチャレンジしています。昨年は約1,100kgの大豆を使ってみそづくりを行いました。

みそは「**地域や家族をつないでくれるもの**」と感じています。講習会をすれば小さな子どもたちは大豆を使って砂場でお団子を作るように一生懸命お手伝いをしてくれます。その光景は今では少なくなった家庭での料理（手作りやワザ）の伝達・交流作業のように見えてなりません。親はかわいい子どもや愛する家族のために、毎日愛情いっぱいのお味噌汁を作り、子どもはそれが親から学ぶ最初の料理になったら、こんなに嬉しいものはありません。また大豆を通して日本における様々な食料問題を知ることができ、生産者や畑にも思いを向けることができます。手作りみそを通して地域や家族、そして生産者とよりつながることができたら、本当に幸せだと思います。



～生産者紹介①アグリ古柿土・横瀬さん（茨城県・守谷市）～

2021年に引き続き、2022年シーズンのみそ用大豆にも協力いただいたアグリ古柿土(ふるがきと)・横瀬さん(写真右)。常総生協本部からおよそ10分ほどで横瀬さんの畑があります。茨城県石岡市で有機農業を営む日本有機農業研究会理事長の魚住道朗氏のもとで有機農業を学び、守谷市で有機農業を実践しています。米ぬか・モミ殻・近所の落ち葉などを用いた自家製堆肥を作り、農薬や化学肥料を使わない農法で年間数十種類の野菜、そして2haの田んぼでお米作りもおこなっています。



2021年シーズンは約5反(約50m×100m)作り約500kgの収量でしたが、今年は2反(約20m×100m)で150kgの収量でした。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、2021年シーズンは常勤・組合員理事を中心に除草作業のお手伝いをおこないました。2022年シーズンはぜひ組合員の皆様も一緒に援農活動をおこないましょう。

# 甲状腺エコー検査@守谷

【日時】2022年3月5日（土）9:30～15:30（申込状況により変更することがあります）

【場所】常総生協2階組合員活動室

【対象】9歳～29歳の方、先着50名（原発事故時18歳以下の方、その他年齢の方は要相談）

【費用】受診者お一人につき2,000円（検診実費として）

【申し込みフォーム】 <https://bit.ly/3oadgDf>

（右のQRコードをご利用ください）



※こちらに必要事項を入力してください。予約時間は後日メールでお知らせしますが、一週間前までに連絡がない場合はお問い合わせください。ネットから申し込めない方は、お電話でお申し込みください。なお、事前にインターネットで検診を説明する動画を見てから来場していただいています。ご自宅でインターネットを使って視聴できない方はお申し込み時にご相談ください。

【問合せ先】基金事務局 木本宛 メール [kikin.kensin@gmail.com](mailto:kikin.kensin@gmail.com) 電話 0297-38-8539

## ◆◆ 申込・受診にあたっての注意事項 ◆◆

1. 事前に申し込みが必要です。当日の申し込みはできません。
2. 原発事故当時18歳以下の方（現在9～29才の方）を優先して受け付けます。
3. 「密」を防ぐため待合室は設置しません。予約時間外にお越しの方はホールや廊下、屋外等でお待ちいただく場合があります。
4. 当日は、来場者全員マスク着用とし、体温や体調の確認もいたします。受診者本人だけでなく、ご家族に平熱ではない方や、いつもと体調が違う方がいる場合も来場をお控えください。
5. 換気に努め、受診者ごとに機器や台、ベッドなどのアルコール消毒を行います。
6. 会場での滞在時間短縮の為、事前にオンラインで問診票に回答していただきます。また検診について説明する動画をご覧になってからお越しください。  
※問診票と動画のURLはお申し込み後にお知らせします。
7. 高校生までは保護者の付き添いが必要です。
8. 感染拡大状況により、検診を中止する場合があります。（申込者には個別にご連絡します。）

